

# まちは、人がつくる 上島町島おこし協力隊の取り組み

## 東京から上島町へ

上島町は、愛媛県の東北部、広島県境に位置し、瀬戸内海の穏やかな海に囲まれた人口約7,400人、大小25の島々からなる町です。上島町では、昨年10月に2名の協力隊を採用し、私は主に弓削・生名地区で活動を行っております。

前職は、東京でマーケティングの仕事をしていました。次の人生のステップとして、移住を意識するようになったのですが、その過程で協力隊のことを知りました。移住時の大きな問題となる職と住まいを提供して頂けること。そして何より、これまで培ってきた経験を、地域というフィールドで活かせることに興味を持ちました。そして、昨年10月より上島町で協力隊としての活動を開始することになりました。

## まちづくりのための取り組み

現在、私が、まちづくりをテーマに取り組んでいる2つのプロジェクトについて紹介させていただきます。

### ①人と人、島と都市をつなぐ 読みもの『Small Story』

『Small Story』は、地域で活躍されている「人」に光を当て、毎月1名の方にお話を伺って作るインタビュー誌です。ウェブマガジンとして、

島おこし協力隊のFacebookページやブログで配信する他、町内の各公共施設や飲食店に紙媒体も設置しています。第1号は、地域に根ざした福祉サービスの提供するNPO法人「ふくふくの会」代表の竹林さん、第2号は、人口36名の島で高齢者の見守りを行



う集落支援員の木村さんにお話を伺いました。

島で暮らしてみても、自分たちの住む場所を自分たちの手で良くしようとする人たちがたくさんいることに驚きました。もちろん、都会にもそういう方はいらつしやるの



上島町島おこし協力隊  
藤巻 光加

でしようし、逆に、島の中でも全員がそうというわけではありません。だからこそ、そうやって自分が生きる場所に対して、責任を負って生きていращやる方々の取り組みやその思いにもっと光を当て、それを町内にも、都市部にも伝えたいと思いました。急激に目に見える変化がでるものではなく、人を基軸にしたまちづくりを目指し、発行しています。

## ②港で自由に本を読む『たていしブックスポット』

『たていしブックスポット』は、立石港務所内(生名島)に設置予定の読書スペースです(4月オープン予定)。「港で自由に本を読む」をコンセプトに、月替わりでテーマを設け、様々なジャンルの本を紹介していく取り組みです。

大昔から、港はたくさんの人やモノが行き交う、文化の交流地です。



ブック  
スポット

の楽しみ方

まっしろな気持ちで、  
普段自分では読まない新しい本に出会おう

ブックスポットにあるのは、たていし港のブックスポットです。  
それだけでなく、立石港の各所々にもブックスポットが設置されています。  
でも、港の各所々にはまだブックスポットがありません。普段自分では読まない新しい本に出会えることができます。  
それがブックスポットの面白さです。

小さな町だからできるという、  
今までなかったような新しい本に出会えます。

本は読んだら読む場所がなくて困ります。  
でも、本は読んだら読む場所がなくて困ります。

家ではない場所、  
のんびりする時間を作ろう

本は読んだら読む場所がなくて困ります。  
でも、本は読んだら読む場所がなくて困ります。

立石港には、ブックスポットがまだありません。立石港には、ブックスポットがまだありません。  
ブックスポットの場所は、立石港の各所々にも設置されています。

立石港には、ブックスポットがまだありません。立石港には、ブックスポットがまだありません。  
ブックスポットの場所は、立石港の各所々にも設置されています。

### たていしブックスポットの楽しみ方

生まれていく。そんな場になりたいと思っています。

### 小さな町だからできること

「地域おこし」とは何かということはこの5ヶ月考えてきました。人口減少、少子高齢化は避けられない事実です。2020年には、上島町の人口は6,000人を割り、高齢化率は48%となると推計されています(国立社会保障人口問題研究所)。そういった社会構造となるからこそ、一人ひとりの力が本当に大事になってきます。

トランジション・タウンという取り組みが注目されていますが、なるべく自分の手と目の届く範囲で、「食」、「もの」、「エネルギー」などを産み出していくという時代がやってくると思います。そして、それは小さなまちが主役になる時代です。一人ひとりの顔が見え、何人かが力を合わせれば、社会を変えることができるという、ワクワクするような生き方だと思っています。

一人ひとりの社会参加度を高め、誰もが誰かに必要とされていると実感できるまちづくりをしていくこと。そういう社会をゴールとして、一つ一つの活動を継続させていくことが、私の仕事なのではないかと今は考えています。まだまだ、力不足なことばかりですし、協力隊終了後の3年後の進路も課題です。しかし、地域の皆さんの手を借りながら、地域にとって必要な人材と思っ頂けるよう、活動を続けたいと思います。

### 特集

地域活性化への新しい風〜地域おこし協力隊〜